

マツダの購買戦略と部品メーカーの対応

山崎修嗣

1 はじめに

2005年3月の決算発表でマツダ自動車（以下マツダ）は昨年度、過去最高益であったこと
 本稿は復調しつつあるマツダの購買戦略と地元部品メーカーの対応について考察し、地元広島にどのような影響があらわれているのかを検討する。

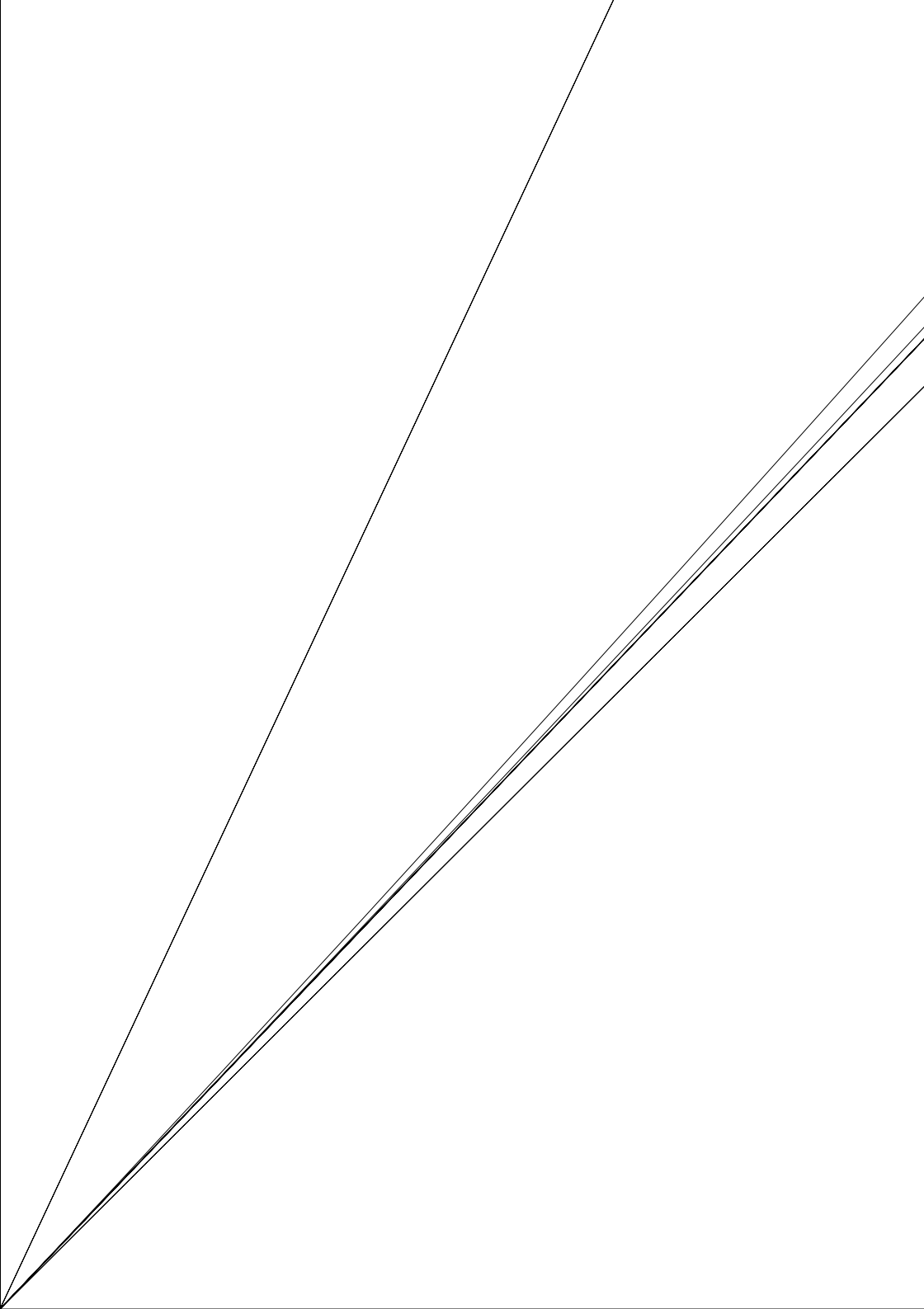
2 マツダの購買戦略

2-1 FSS（フル・サービス・サプライヤー）

2000年の新規調達から部品の開発・調達・生産を原則的に任せるFSS（
 188社の取引先へFSSの認定を通達、開発負担の軽減とVA、VE（価値）分析活動によるコストダウン、部品点数の削減等を

（注1）。既存技術を前提にした部品開発はサプライヤーにまかせて、マツダは環境・安全などの社会のニーズ・規制に対応する新しい技術分野に資金を回すことを狙いとしたりしたものだ。しかし次の2つの問題点を持つため中止

1は、部品の
 らうことはできなかったことである。資金を投入しなければならないのであ
 あ 2は、開発に伴う責任範囲をマツダとサプライヤーとの間で明確な線引きができないという問題の発生である。担当されている藤原専務の話では、FSSは当初から制度として発足したものではなかったということであるが、上記2つの問題からう か 2)。



担当するプレス、板金、塗装メーカー 17社で構成され、第 3 会は主として内・外装、排気系部品の製造を担当するメーカー及び設備・金型メーカー、新技術開発支援、生産合理化活動、人権啓発活動、研修セミナーの開発、親睦・交流等である（注 8）。

3-2 モジュール化・新発注政策への対応

モジュール化への対応として業種を超えた協業化を進めるために、広島県商工労働部が主催してモジュール委員会を発足させた。ここでは、マツダのモジュール化の方針を聞き、各社の技術・アイデアを持ち寄って、最適モジュール

発注政策への対応は、大きく 2 つに分か 開、 つ
 カーはさらに自立化にむけて経営を展開している。問題は、集約化の下
 で、一次メーカーになれない部品メーカーであ 。東友 、

現在、長期戦略で自立化を進めているオーモリテクノス（創業1932年・資本金6000万円・売上高48億円・従業員210人・マツダの取引割合20%、日産25%）の次世代ポンプ開発や久保田鉄工所（業1938年・本金120万円・売上高51億円・従業員208人・マツダの取引割合48%）の600トン5軸CNC油圧プレス

さらに最近の事例として、
2. 参入。一シンのように最初、低コストを主たる目的として中国進出し例もあるが、洋シート・ロテック・石崎本店モスルンツのように現

現在、こうした技術開発や海外進出の成功例は少ないが、今後、技術開

ドとなっていくと言えよ

4 おわりに

以上、最近のマツダの購買戦略と部品メーカーの対応について考察してきた。一言でまとめると地場部品メーカーの経営環境という点からするとマスコミで報じられて

析については、今後の課題としたい。

注1 『マツダグループの実態2005年版』P102、アイアールシー、2005年5月

注2 2005年7月5日、マツダ本社での藤川専務と伊藤インタビューより

注3 『マツダグループの実態2005年版』P102、アイアールシー、2005年5月

注4 2005年7月5日、マツダ本社での藤川専務と伊藤インタビューより

注5 「日本経済新聞」5月31日広島経済欄

注6 目代武史「広島地域における自動車部品モジュール化の向車と場域メ品モカルルの対応」『地』3月

注7 東友会協同組合資料より

注8 東友会協同組合資料

注9 2005年7月7日、東友会協同組合 森

- 1 0 2 5 年 7 月 2 日 オーモリテクノス 小林専務、7月19日、久保田
 役とのインタビューより
- 1 2 0 5 年 7 月 7 日、東友会協同組合 森本専務理事とのインタビューより

表2 海外進出

会社名	進出先	会社名	製品	備考
荻野工	フィリピン	オギノフィリピン ーポレシボヨン	IT部品	し自動車以外
音戸工作所	アメリカ	レナウィースタンピン グコーポレーション	板金部品	(株)音戸工作所、(株)ワイテック、(株)キーレックスとの JV
	中国		締結部品	日系5社JV
日東工業(株)	中国	鄆日東工業有限公司	タペット	地企業との JV
(株)ハマダ	マレーシア	TRIM	アルミ製品	湾企業との JV
島アルミニウム工業(株)	ベトナム	HAL	アルミダイキャスト	音戸工作所、音キーレックス、(株)ワイテックとの JV
キーレックス	アメリカ	レナウィースタンピン グコーポレーション	板金部品	独資
	中国			
黒石鉄工(株)	韓国	エレ	境産業機械	し自動車以外
ヒロテック	タイ	イサミットヒロテクト(株)	プレス製品	
	メキシコ	ベンテック(株)	GM・Fordのドア	
	スペイン	ンポーネスポヒロテック	ドア	GM向け
	韓国	新羅エンジニアリング	金型・治具	
	アメリカ	スコエンジニアリグジ	種治具装置	
	中国		金型・装置	独資
	中国		サイレンサ	だし(株)ユー ン
ワイテック	アメリカ	ナウィース ーポレシボヨン	板金部品	(株)音戸工作所、(株)キーレックスとの JV
	中国			
(株)石崎本店	中国		イドミラー	上開明堂との JV
	アメリカ	PENSTONE INC	ラスアッセンブリー	
ジー・ピー・イキョー(株)	韓国	P LAI KYORIYRE I(株)	自動車部品の設計開発	
	カナダ	DDM Plastics Company	動車用プラスチック	
	中国			西川化成(株)
	フィリピン	AIC		(株)東洋シート南条装 工業(株)との JV
	マレーシア		マット	地会社との JV
	中国			検討中
ルタ工業(株)	アメリカ	DELTA CORPORATION	シート	
	タイ	ELTA- CO. , TAE		
	中国		シート	

会社名	進	会社名	製	品	備	考
	フィリピン	AIC				南条・すぎはらのJV
		東洋	ト	USAC	Co	イムレ
東洋シート	アメリカ					タッキー工場 ネシー工場

執筆者紹介

葉節葉夫 葉社葉葉會環境研究講座教葉葉葉授葉
東東東碩東社東東東會環境研究講座助東東東教授
橋勝橋橋橋行橋橋橋動科学研究講座助橋橋橋教授

材木和雄 社会環境研究講座 助教授
山崎修嗣

編集委員

李東碩 (編集長)
秋葉節夫
材木和雄
坂恵坂美子

2に査読委員を
委嘱し、審査をおこなった上で掲し

紀要Ⅱ 「社会文化研究」

成17年7月発行

編集兼 広大学総合科部総
発行者 広島市鏡山 1丁 7番1号